

全戸参加型組織別整理シート

(平成20年7月～8月に現地ヒアリングを実施した組織)

1 . NPO 雪のふるさと安塚 (新潟県上越市 (安塚町))	1
2 . NPO 夢あふれるまち浦川原 (新潟県上越市 (旧浦川原村))	4
3 . NPO 夢未来くんま (静岡県浜松市 (旧天竜市))	7
4 . NPO がんばらまいか佐久間 (静岡県浜松市 (旧佐久間町))	9
5 . 大馬越地区コミュニティ協議会 (鹿児島県薩摩川内市 (旧入来町))	11
6 . 鹿島地区コミュニティ協議会 (鹿児島県薩摩川内市 (旧鹿島村))	14
7 . 西山地区コミュニティ協議会 (鹿児島県薩摩川内市 (旧下甑村))	17
8 . NPO ふれあい由比 (静岡県由比町)	21
9 . NPO まちづくり山岡 (岐阜県恵那市 (旧山岡町))	23

1 . NPO 雪のふるさと安塚（新潟県上越市（安塚町））

所在地	新潟県上越市（旧安塚町）
設立年月	平成 16 年 8 月
圏域単位、参加	旧町単位、全世帯が加入（全世帯の約 8 割が加入）
過疎地域等指定	過疎地域とみなされる市町村、豪雪地帯

1 . 組織

組織化のきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> 平成 15 年に全国第一号の地縁自治型 NPO として設立された山岡とは出稼ぎの関係から姉妹都市提携をしていて、旧町長に安塚に来てもらうなど、随分参考にした。87 名の設立準備会で議論を重ね、くびき野 NPO サポートセンターの助言も得た。市町村合併までの NPO 設立を目指し、平成 16 年 8 月に認可申請と随分急いだ。
既存集落との関係	<ul style="list-style-type: none"> 自治会・町内会を母体とした NPO である。自治会や町内会の関係者の中には、NPO の傘下に入ることにに対する反発もある。
地域住民参加の形、地域代表性	<ul style="list-style-type: none"> 1 世帯少なくとも 1 名の会員確保を目指した。会員の募集は隣組・自治会・町内会を通じて行った。 会員に対して温浴施設利用料の割引を行っている。
経済活動の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> 合併後の今後は、住民でやれる部分は住民でやっていくという方向。人口減少高齢化で今までやってきたことができなくなったら、するしない、するなら誰がするということを考えていく必要がある。
戦略性と評価システム	<ul style="list-style-type: none"> 定款に定める 5 つの部会（第 1 部会：支えあい安心して暮らせる環境部会、第 2 部会：自然と食を活かした産業を育てる部会、第 3 部会：豊かな心を育む部会、第 4 部会：観光・交流部会、第 5 部会：情報発信部会、）が即ち、事業部会に対応している。5 つの事業部会で受けられる事業は積極的に受け、自主事業としても様々な事業を実施している。
会員・会費	<ul style="list-style-type: none"> 年会費 2,000 円。賛助会員 1,000 円もある。 自治会・町内会を母体とした NPO であり、NPO についての周知、会員の募集は隣組・自治会・町内会を通じて行った。
事務所	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティセンター内にあり。

2 . 活動

活動の範囲	<ul style="list-style-type: none"> 多雪地域であり、昭和 60 年の矢野町長の時代から、雪を活用したまちづくりを行ってきた。 合併後の今後は、住民でやれる部分は住民でやっていくという方向である。今までやってきたことができなくなったら、するしない、するなら誰がするということを考えていく必要がある。 5 つの事業部会で受けられる事業は積極的に受け、様々な自主事業（CATV の取材や編集、全町内会参加による雪まつり、花いっぱい運動、道路の草刈りなど）も実施している。花いっぱい道路の草刈りは事業の相性がよく、管理がしやすく地域の協力も得やすい。
活動内容	<p>有償ボランティア事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 移送、草取り・草刈、家事援助、除雪などを行う。サービス提供者登録は現在 54 名。多くは除雪要員である。 <p>放課後児童クラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区内の児童 35 名を預かっている（安塚）

特産品開発・販売	<ul style="list-style-type: none"> 第2部会で、地域で多く生産されているしいたけを活用して、しいたけ麺を試作したが、事業化できてない。誰が作ってどう売るかをきちんとしないと遊びで終わってしまう。
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> 受託を働きかけられたものの受けなかった事業が、高齢者宅への食事の配達である。栄養士の確保が難しく、社会福祉協議会に任せた。
定住・交流	<ul style="list-style-type: none"> 花いっぱい運動、道路の草刈り
イベント	<ul style="list-style-type: none"> 全町内会参加による雪まつり、
過疎地有償運送	<p>移送事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 合併の2年前から開始した。生活の足がない高齢者から好評である。1km50円（内訳：運転者40円、NPO10円）の受益者負担で、医療機関、買い物の利用ニーズ、中には寺（お墓）参りというのもある。土日も含み1.5件/日の稼働状態である。隣接の蒲川原区にタクシー営業所があり、それと競合しないよう、区内から区内への移動という条件。 他の地区からの引き合いが多い（現在は行っていない）。 <p>スクールバス</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区内の児童の通学や授業の移動で活用している。1年間はタクシー会社が落札したが、採算があわず撤退。現在はまたNPOが担当している。放課後児童クラブで35名を預かっている。

3. 財源と人材

理事数	<ul style="list-style-type: none"> 理事は16名（代表1名、副代表1名）、幹事3名。 理事長は、平成16年3月まで町役場勤務、退職後1年間のNPOの事務局長、2年間の副代表理事を経て、平成20年度より理事長。 																		
スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> 事務局体制は、NPO発足時は常勤3名であったが、現在は常勤5名体制をとっている。ほか、コミュニティプラザの宿日直としての管理員もいる。 																		
経常収入	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>収入（千円）</th> <th>支出（千円）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16年度</td> <td>84,726 （会費2,531, 寄付金80,000）</td> <td>80,161</td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td>43,574 （会費2,701, 事業収入40,355）</td> <td>40,336</td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td>43,841 （会費2,600, 事業収入42,050）</td> <td>42,494</td> </tr> <tr> <td>19年度</td> <td>47,431 （会費2,479, 事業収入44,165）</td> <td>46,145</td> </tr> <tr> <td>20年度</td> <td>61,022 （会費2,500, 事業収入43,021, 他）</td> <td>61,022 （ボランティア事4,040, 受託事業41,303, 自主事業費3,360, 管理費等6,069, 予備費6,250）</td> </tr> </tbody> </table>	年度	収入（千円）	支出（千円）	16年度	84,726 （会費2,531, 寄付金80,000）	80,161	17年度	43,574 （会費2,701, 事業収入40,355）	40,336	18年度	43,841 （会費2,600, 事業収入42,050）	42,494	19年度	47,431 （会費2,479, 事業収入44,165）	46,145	20年度	61,022 （会費2,500, 事業収入43,021, 他）	61,022 （ボランティア事4,040, 受託事業41,303, 自主事業費3,360, 管理費等6,069, 予備費6,250）
年度	収入（千円）	支出（千円）																	
16年度	84,726 （会費2,531, 寄付金80,000）	80,161																	
17年度	43,574 （会費2,701, 事業収入40,355）	40,336																	
18年度	43,841 （会費2,600, 事業収入42,050）	42,494																	
19年度	47,431 （会費2,479, 事業収入44,165）	46,145																	
20年度	61,022 （会費2,500, 事業収入43,021, 他）	61,022 （ボランティア事4,040, 受託事業41,303, 自主事業費3,360, 管理費等6,069, 予備費6,250）																	
経常支出	<ul style="list-style-type: none"> 当初の旧町からの8000万円の寄付金は、7000万円を基金、1000 																		

	万円を運転資金と位置付けている。平成 16 年度より 4 期連続で、経常収支黒字の経営を行っていて、寄付金はそのままある。平成 19 年度の収入は約 4700 万円。
行政による 人的支援	・ 特になし。

4．外部とのネットワーク

地域の諸団体等 との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加入している地域の団体は、どこかの部会に属してもらっている。 ・ 雪だるま財団は財団であり、基金を取り崩して事業は実施できない。
地域外との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 13 区（旧町村）の連絡会でいろいろ議論をしていきたい。
ICT の利活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO が CATV の番組取材・編集や文字放送を発信している。 ・ 市からの受託事業として、地区内の CATV 網を活用して、高齢者の自宅に、緊急ボタンを 2 箇所（通常は居間と、寝室かトイレ）温度センサー設置し、双方向のテレビカメラを導入、コミュニティセンターの宿日直が 24 時間、テレビ電話システムを監視している。 ・ ボタンが鳴れば、区総合事務所のほか、事前登録された近隣の人が 1 番から 3 番順位まで登録されていて駆けつける仕組み。毎朝、8～9 時に高齢者が大丈夫ボタンを押し、押し忘れの場合には、NPO から電話を入れるほか、いっせいお元気コールを行う。週に 1 度は直接会話をする。保健師が具体的に健康状態を聞いたりもする。将来的には健康相談により活用したい。70 歳以上の高齢者を対象とし、100 世帯に設置した。合併交付金による事業である。参考にしたシステムはなく、要件定義も NPO で独自に行った。

5．現状と今後の方向性

現在の到達点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のことを皆でやっていくということについて、時間をかけて議論し、実践していくことが必要である。 ・ 1 年後の総会では、自治会・町内会に依存し、自前の組織となっていない点について住民から随分批判も受けた。自治会・町内会が NPO の一部であるという甘い期待をもっている点は否めない。 ・ NPO は本来、特定目的で組成されるものだと認識している。まちづくりを行う団体では、事業範囲が広くなりすぎる。 ・ 5 年目の区切りとなる来年に、シンポジウムなどで地域住民にこれでよいかどうか聞いてみたりし、これまでの総括をする予定である。これまで取り崩していない旧村からの寄付金を使った事業を実施することも考えている。
行政との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧安塚町では、旧町による直営方式が多かったが、合併後の上越市では民間活用であり方針に違いがでた。直営方式時代に働いていた人の補償も必要であり、20 近い事業の入札に参加した。 ・ NPO にとって受託可能なものは積極的に受けるようにしている。そうしたやり方に、一部には、首をかしげる人もいる。委託事業と自主事業が少々混乱気味であり今後、整理が必要だと考えている。

2. NPO 夢あふれるまち浦川原（新潟県上越市（旧浦川原村））

所在地	新潟県上越市（旧浦川原村）
設立年月	平成 16 年 12 月
圏域単位、参加	旧村単位、全世帯が加入（全世帯の約 6 割が加入）
過疎地域等指定	過疎地域とみなされる市町村、豪雪地帯

1. 組織

組織化のきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> もともと、住民組織を立ち上げることは考えていなかった。村長が合併を機に役場庁舎をコミュニティプラザとする際の利活用のあり方の検討委員を公募し 8 名が集ったのがきっかけ。公募委員等により、検討の結果答申として求められていたコミュニティプラザの用途だけではなく、住民組織の必要性についての提言を行った。
既存集落との関係	<ul style="list-style-type: none"> 住民の住民自治組織に対する認識は徐々に上がりつつある。 住民自治組織の下には組織はない。町内会や地域の他団体の活動を NPO が吸い上げてしまいなくすことはしたくない。 活動 3 年目にして、企業会員を募集したところ 30 の企業から賛同を得て加入してもらった。
地域住民参加の形、地域代表性	<ul style="list-style-type: none"> 強制はしないで、賛同を得た人から会費をいただきたい。現在、世帯あたりでは 64% が加入している。 町内会長経由で集める方法はあるが、あくまで賛同を得た人から会費をいただきたいという理由から行っていない。今年度は、職員も一人増えたことから、住宅地図などをもとに募集にも取り組みたい。
経済活動の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> だれもやらないことを住民自治組織が担うべきと考えている。
戦略性と評価システム	<ul style="list-style-type: none"> 総務・企画、文化・交流・観光、農業・産業の 3 つの部会をもっている。当初は 6 部会あったが機能していない部会があった。体育関係の部会は地域内にスポーツ関係の NPO ができ、なくした。何かあれば、そちらに情報を投げることになっている。 活動は、メンバーが仕事を持っている関係で夜におこなうことが多い。またイベントも土曜日にやって、翌日曜日に片づけというやり方にしている。明日行おうらがわらまつりは例年日曜だったが、月曜の片付けでは住民自身ではできないため、今年から NPO の自主事業となり、土曜日に実施することに変更した。 地域内にある様々な活動はそのまま活かしていきたい。NPO の下には組織はない。町内会や地域の他団体の活動を NPO が吸い上げてしまいなくすことはしたくない。 NPO では、誰もやらないことをやるべきと考えている。しかし自分たちでできないことはやらない。そのような考えのため行政からの委託事業も自分たちでできるものを選ぶようにしている。
会員・会費	<ul style="list-style-type: none"> 世帯あたり年間 1,000 円の会費を集めている。平成 19 年度は正会員収入で 137 万円、賛助会員収入で 2 万円であった。 企業会員は 10,000 円である。企業会員は NPO の活動に対する認知があがってから募集しようと、設立から 3 年間は控えてきた。今年度活動を行ったところ 30 企業が加入してくれた。
事務所	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティセンター内にあり。

2. 活動

活動の範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受託事業として、敬老会 100 万円、文化財調査 8 万円がある。 ・ 自主的事業としてイベントカレンダー発行 6 万円、うらがわらまつり 341 万円、越後田舎体験 10 万円、柴又交流 180 万円、エコフェスタ（チェーンソー・カービング）100 万円、夢だよりの発行 5 万円がある。
活動内容	
特産品開発・販売	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受託事業ではなかなか収益は上がらず、わら草履の継承、田舎体験などコミュニティビジネス的なものを行っていききたい。 ・ エコフェスタで使用する杉は NPO で用意し、作品を販売する（今年度より）。
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受託事業として、敬老会 100 万円。
定住・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政がおこなっていた祭りを引きつぎ実施。地域外との交流活動を行っている。自主事業として実施している。 ・ 自主的事業としてうらがわらまつり 341 万円、越後田舎体験 10 万円、柴又交流 180 万円がある。 ・ 毎月 NPO だよりを会員、非会員を問わず、地域の全戸に配布する。
イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受託事業として、文化財調査 8 万円がある。 ・ 自主的事業としてイベントカレンダー発行 6 万円、うらがわらまつり 341 万円、越後田舎体験 10 万円、柴又交流 180 万円、エコフェスタ（チェーンソー・カービング）100 万円、夢だよりの発行 5 万円がある。 ・ 3 年前から 9 月下旬に開催しているチェーンソー・カービングには、全国からプロ・アマチュア約 15 人が集まる。高さ 1.2m、幅 40cm くらいの杉を 4 時間で彫刻作品に仕上げるもの。作品はオークションにかけ、主催者と作者で折半される。
環境保全・環境学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコフェスタ（チェーンソー・カービング）100 万円がある。 ・ チェーンソーの油のエコ燃料を使用している。
参加者にとっての意義	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員である住民に対してもメリットが感じられるようにコンサートなど文化事業に取り組み始めたところである。

3. 財源と人材

理事数	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO には、理事長 1 名、事務局長（非常勤、食品製造会社の社長）1 名、理事 18 名がいる。当初、村時代の 4 地区の代表や既存の団体から 1～2 名理事を出してもらったので、30 名程度の理事がいた。しかし、団体を代表してきている人はあまり役に立たず、自分の意識ででてもらいたいという考えからお願いすることをやめた。 ・ 理事長（自営業）は、昨年度まで地域協議会の会長も兼任していたが、両方の立場を使い分けるのは難しく、今年からは NPO の理事長だけを行うこととした。（地域協議会は、市長の諮問機関であり、何かをしようという団体とはいえない。）
スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当初、事務員 1 名を公募したところ、地元でなく隣の三和区から複数応募があり、主婦の方を雇用した。また、今年度から職員を 1 名雇った。
経常収入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 19 年度は収入 449 万円に対して、支出 571 万円となり、122 万円の赤字。 ・ 平成 20 年度の事業収入は約 800 万円を計画している。
経常支出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧村からの寄付金 2000 万円をできるだけ残るようにしたい。これ

	<p>らの費用は NPO の運転資金ではなく、新規事業や調査のために使うべきと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当初の 2000 万円の寄付金が徐々に減った結果、現在、1300 万円程度を預金している。基金として 1000 万円のレベルは維持したい。 ・ 事業費の 1 割は一般管理費として残すように活動していきたい。
行政による人的支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし。

4．外部とのネットワーク

地域の諸団体等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区内の連携状況としては、地域協議会、町内会会長連絡協議会、NPO の連携をどうとるかは今後の課題と認識している。定期的な会合を持つ必要はなく、必要がある時に集まって議論するのがよい。 ・ 町内会単位で防災機器を調達しようとしたが戸数が少なく価格面でのメリットがでなかった為、NPO がまとめて調達することとした。 ・ NPO 夢だよりを毎月発行し全戸配布し、活動を周知している。
地域外との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学童集団疎開したことをきっかけとして東京・葛飾の柴又地区の住民と交流を続けている。

5．現状と今後の方向性

現在の到達点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、地域のコンシェルジュ的な事業に取り組みたい。住民・来訪者が何か困ったことがあれば、まず NPO に相談してもらえよう体制をつくり対応したい。来年度から実施したい。「連合(新潟)」のサポートセンターの活動をイメージしている。 ・ これまでのように小学校区、町内会の再編では意味がない。浦川原区では小学校単位での取り組みは難しいと考える(調査主旨に、小学校区単位に着目とあり、それは違うと感じた)。お互い疲れている地区内の住民同士で連携せよと言っても無理。 ・ 流域連携の考え方がよい。上流地域と普段上流の水の利用などで恩恵を受けている下流域の住民と助け合いができるようにするべきである。例えば、頸城の工業団地や農家と交流すると良いのではないか。合併になると受益者間での交流が行いやすくなると期待から賛成であった。我々からいっても相手にされないと思うので、市役所が交流の場をセットしてもらえるとありがたい。 ・ 農業を産業というよりは、文化として位置付けて守っているという発想も必要ではないか。 ・ 結とは手間返しである。モノとモノとが双方に交換されること。地域内だけではなく、もっと様々なくくりで結ができてよい。
行政との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO では、誰もやらないことをやるべきと考えている。しかし自分たちでできないことはやらない。そのような考えのため行政からの委託事業も自分たちでできるものを選ぶようにしている。 ・ コミュニティセンターの運営委託は、夜勤の人員確保などで負荷が大きいため断っている。

3. NPO 夢未来くんま（静岡県浜松市（旧天竜市））

所在地	静岡県浜松市（旧天竜市）
設立年月	平成 12 年 6 月
圏域単位、参加	小学校圏域、全世帯が加入
過疎地域等指定	振興山村

1. 組織

組織化のきっかけ	昭和 61 年設立の全戸加入組織「熊地区活性化推進協議会」が村おこし事業を行ってきた。安定的経営とするために法人化を検討していた中で、平成 10 年に NPO 法が整備されたことを受け、NPO 法人格を取得した。
既存集落との関係	23 集落に 1 人ずつ NPO 地区協力員を配置し、地域住民と NPO との橋渡しをしている。
地域住民参加の形、地域代表性	20 歳以上の個人を会員としている。地区内の全世帯（270 戸）に 1 人は会員がいる。若い世代の参加も増加しており、地域に夢未来くんまの活動が浸透している。 施設整備にかかった 1 億 6 千万のうち 4200 万円は共有林を売却して地元が負担、残りは国、県、旧天竜市から補助を受けた。
経済活動の位置付け	農産加工品の販売等の収益事業で得た利益を非営利事業で地域に還元している。 NPO 活動の協力者・参加者にはくんまで使えるチケット（エコマネーとは別のもの）を配布し、地域内循環ができるようにしている。
戦略性と評価システム	運営委員会である「ゆめまちづくり委員会」が活動内容を検討し、各部（水車部、しあわせ部、いきがい部、ふるさと部）において各種団体や住民に参加を呼びかけて活動を実施する。
会員・会費	会員 570 人、入会金 1000 円、年会費 100 円
事務所	夢未来くんまが運営する道の駅「くんま水車の里」内に「熊愛館」設置。

2. 活動

活動の範囲	地場産品や農産加工品の生産・販売等の収益事業と、高齢者福祉や環境保全活動、交流人口の増大を図るための各種イベントを実施。
活動内容	
特産品開発・販売	<ul style="list-style-type: none"> ・「かあさんの店」においてそばを中心とした食事処営業 ・物産館「ぶらっと」において特産品販売 ・「水車の里」において食文化の技術伝承の体験・イベント実施
高齢者福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・給食サービス ・介護認定以外の方を対象としたデイサービス「どっこいしょ」運営
定住・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・「交流居住モデル事業」(浜松市からの委託事業)での交流居住の体験プログラム実施 ・ホームステイの受け入れ
イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほたるを観る会」、「大寒謝祭」等のイベントの企画・運営
環境保全・環境学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさとの山・川まもり隊育成事業」(静岡県からの委託事業)、「子どもの水辺事業」実施
過疎地有償運送	<ul style="list-style-type: none"> ・現在実施に向けて検討中。運転手の確保、利用者負担をどうするかが現在の課題。
参加者にとって	NPO の活動による収益増や人口増はないが、地域に思いがある人が増

の意義	え、地域が元気になったというお金ではない価値がある。
-----	----------------------------

3. 財源と人材

理事数	理事 7 人、監事 2 人																											
スタッフ	有給社員 30 人（うち事務スタッフ 2 人） 有給パート 5 人																											
経常収入	<p style="text-align: center;">平成 19 年度収支決算書</p> <p style="text-align: right;">(単位:円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">会費</td> <td style="width: 10%;">75,500</td> <td style="width: 40%;">NPO会費</td> </tr> <tr> <td>補助金</td> <td>50,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>助成金</td> <td>42,000</td> <td>社会福祉協議会</td> </tr> <tr> <td>負担金収入</td> <td>123,520</td> <td>どっこいしょ会費 ほたるの学校</td> </tr> <tr> <td>委託金</td> <td>1,260,000</td> <td>交流居住モデル事業</td> </tr> <tr> <td>自主事業</td> <td>71,020,236</td> <td>水車部</td> </tr> <tr> <td>寄付金</td> <td>65,650</td> <td></td> </tr> <tr> <td>雑収入</td> <td>839,008</td> <td>講演料 手数料 利息他</td> </tr> <tr> <td>収入計</td> <td>73,475,914</td> <td></td> </tr> </table>	会費	75,500	NPO会費	補助金	50,000		助成金	42,000	社会福祉協議会	負担金収入	123,520	どっこいしょ会費 ほたるの学校	委託金	1,260,000	交流居住モデル事業	自主事業	71,020,236	水車部	寄付金	65,650		雑収入	839,008	講演料 手数料 利息他	収入計	73,475,914	
会費	75,500	NPO会費																										
補助金	50,000																											
助成金	42,000	社会福祉協議会																										
負担金収入	123,520	どっこいしょ会費 ほたるの学校																										
委託金	1,260,000	交流居住モデル事業																										
自主事業	71,020,236	水車部																										
寄付金	65,650																											
雑収入	839,008	講演料 手数料 利息他																										
収入計	73,475,914																											
経常支出	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">事業費</td> <td style="width: 10%;">69,884,324</td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td>管理費</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施設管理費</td> <td>609,312</td> <td>電気料 駐車場地代 草刈り</td> </tr> <tr> <td>事務局運営費</td> <td>1,875,013</td> <td>人件費他</td> </tr> <tr> <td>税金</td> <td>70,807</td> <td>法人県民税、法人市民税</td> </tr> <tr> <td>支出計</td> <td>72,439,456</td> <td></td> </tr> </table>	事業費	69,884,324		管理費			施設管理費	609,312	電気料 駐車場地代 草刈り	事務局運営費	1,875,013	人件費他	税金	70,807	法人県民税、法人市民税	支出計	72,439,456										
事業費	69,884,324																											
管理費																												
施設管理費	609,312	電気料 駐車場地代 草刈り																										
事務局運営費	1,875,013	人件費他																										
税金	70,807	法人県民税、法人市民税																										
支出計	72,439,456																											
行政による人的支援	活性化推進協議会の際には事務局を天竜市職員が行っていたが、現在、行政からの人的支援はない。																											

4. 外部とのネットワーク

地域の諸団体等との連携	NPO の活動にあたっては、地域内の各種団体の参加を得て実施している。大寒謝祭では多くの団体が参加している。
地域外との連携	平成元年に農林水産祭「豊かなむらづくり」部門で農林水産大臣賞及び天皇杯を受賞、また総務省の交流居住のホームページに夢未来くんまの情報が掲載されていることなどもあり、各地から様々な団体が視察に訪れている。
ICT の利活用	今後ブログを作成する予定である。

5. 現状と今後の方向性

現在の到達点	活動当初は、地域から反対の声も複数あり、無関心な方も多かったが、現在は活動が理解されてきていると感じる。夢未来くんまの活動により、子どもたちがくんま出身だと胸を張っていえるようになったと聞く。 様々なところで夢未来くんまの活動が紹介されており、全国から視察も多い。
行政との関係	地域協議会との連携関係はない。 浜松市からは夢未来くんまの活動は評価されており、区を通さずに直接委託事業の話がある。

4. NPO がんばらまいか佐久間（静岡県浜松市（旧佐久間町））

所在地	静岡県浜松市（旧佐久間町）
設立年月	平成 17 年 7 月
圏域単位、参加	旧町域、全世帯の 7 割が加入
過疎地域等指定	過疎地域、振興山村（浦川・山香・城西のみ）

1. 組織

組織化のきっかけ	合併前より合併後の今後のまちづくりをどうするのかという議論をしてきており、議会が NPO の骨子をつくり、行政が事務局をサポートし、NPO 法人として発足した。
既存集落との関係	自治会とは一線を引くようにしており、自治会の行事は NPO と関係なく実施している。会費の徴収は、自治会に依存せず 37 自治会単位で NPO の会費徴収担当をおいている。
地域住民参加の形、地域代表性	発会后、37 自治会をまわって各世帯に NPO 加入の申込書の記入・押印をお願いした。会員は自ら働く「活動会員」とサービスを受ける「賛助会員」の 2 つに分かれており、どちらになるか各自選ぶ。設立にあたっては議会全会一致のもと、旧佐久間町から 1 億円の寄付を得ている。
経済活動の位置付け	事務所の所在する文化会館の指定管理者となっており、収支については見通しがたってきている。NPO タクシーについては今後経営に耐えうるだけの努力の必要がある。
戦略性と評価システム	7 つの活動委員会と NPO タクシー運営委員会が実行組織となっている。各活動委員会は 4 地区の支部長・副支部長等計 16 人で組織され、事業計画をたてる。
会員・会費	会員 3055 人、年会費 1200 円 / 世帯
事務所	指定管理を務めている文化会館の 2 室を事務所として使用。

2. 活動

活動の範囲	合併による行政のひずみの解消（合併により行政で行えなくなった事業）、地域の不便の解消（過疎地有償運送事業等）、まちの活性化（地域おこし等）を目的として活動を実施。
活動内容	
NPO タクシー	・日本第一号の NPO 福祉タクシー（過疎地有償運送事業）を導入、1 日 20 回くらいの出車で現在は予約なしでは乗れない状況
保健・福祉	・敬老会、送迎案内、病院と連携したミニ講座の開催
地域おこし	・休耕田の活用 ・食堂「いどばた」の運営
文化・スポーツ	・文化会館のイベント企画・立案・チケット販売 ・成人式、駅伝大会の企画・運営
環境	・環境 PR、森づくり・管理、大掃除
女性活動	・休耕田でのそば・小麦・とうもろこしの栽培 ・粉食の推進
定住交流	・「浜松流田舎暮らし」、「空家対策事業」（委託事業）
参加者にとっての意義	「攻め」の取り組みについては、自分たちで行う必要がある。夢や希望、活力の維持は自らで行わないと得られない。

3. 財源と人材

理事数	理事 20 人、監事 2 人																																																																							
スタッフ	有給社員 2 人（1 人は会費収入、1 人は指定管理事業により賄う）																																																																							
経常収入	<p style="text-align: center;">平成 18 年度収支決算書</p> <p style="text-align: right;">(単位:円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 35%;">基本財産運用収)</td> <td style="width: 15%;">56,249</td> <td style="width: 35%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>会費収入</td> <td>1,772,400</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">事業収入</td> <td>各種保健・福祉サービス</td> <td>2,985,724</td> <td>敬老会、市補助金</td> </tr> <tr> <td>地域おこし、各種イベント等</td> <td>74,200</td> <td>フェスタパン販売、そば粉販売</td> </tr> <tr> <td>人づくり、文化・スポーツの推進</td> <td>8,350,000</td> <td>文化振興事業</td> </tr> <tr> <td>環境づくりの推進</td> <td>50,000</td> <td>苗木管理</td> </tr> <tr> <td>雑収入</td> <td>54,509</td> <td>損保保険金返還</td> </tr> <tr> <td>収入計</td> <td></td> <td>13,343,082</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="13">経常支出</td> <td rowspan="5">事業費</td> <td>各種保健・福祉サービス</td> <td>3,006,249</td> <td>敬老会</td> </tr> <tr> <td>地域おこし、各種イベント等</td> <td>210,281</td> <td>フェスタ経費、そばの里経費</td> </tr> <tr> <td>人づくり、文化・スポーツの推進</td> <td>8,350,000</td> <td>文化振興事業、とん汁サービス</td> </tr> <tr> <td>環境づくりの推進</td> <td>84,268</td> <td>ごみ拾い、森づくり</td> </tr> <tr> <td>まちづくり活動活性化のための調整、助言又は支援</td> <td>66,428</td> <td>講演会経費</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">管理費</td> <td>職員人件費</td> <td>1,418,559</td> <td>職員賃金</td> </tr> <tr> <td>法定福利費</td> <td>197,355</td> <td>社会保険料等</td> </tr> <tr> <td>旅費・費用弁償</td> <td>23,184</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務費・需用費</td> <td>892,715</td> <td></td> </tr> <tr> <td>電話使用量</td> <td>92,292</td> <td></td> </tr> <tr> <td>通信運搬費</td> <td>37,830</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保険料費</td> <td>91,750</td> <td></td> </tr> <tr> <td>支出計</td> <td></td> <td>14,470,911</td> <td></td> </tr> </table>		基本財産運用収)	56,249			会費収入	1,772,400		事業収入	各種保健・福祉サービス	2,985,724	敬老会、市補助金	地域おこし、各種イベント等	74,200	フェスタパン販売、そば粉販売	人づくり、文化・スポーツの推進	8,350,000	文化振興事業	環境づくりの推進	50,000	苗木管理	雑収入	54,509	損保保険金返還	収入計		13,343,082		経常支出	事業費	各種保健・福祉サービス	3,006,249	敬老会	地域おこし、各種イベント等	210,281	フェスタ経費、そばの里経費	人づくり、文化・スポーツの推進	8,350,000	文化振興事業、とん汁サービス	環境づくりの推進	84,268	ごみ拾い、森づくり	まちづくり活動活性化のための調整、助言又は支援	66,428	講演会経費	管理費	職員人件費	1,418,559	職員賃金	法定福利費	197,355	社会保険料等	旅費・費用弁償	23,184		事務費・需用費	892,715		電話使用量	92,292		通信運搬費	37,830		保険料費	91,750		支出計		14,470,911	
	基本財産運用収)	56,249																																																																						
	会費収入	1,772,400																																																																						
事業収入	各種保健・福祉サービス	2,985,724	敬老会、市補助金																																																																					
	地域おこし、各種イベント等	74,200	フェスタパン販売、そば粉販売																																																																					
	人づくり、文化・スポーツの推進	8,350,000	文化振興事業																																																																					
	環境づくりの推進	50,000	苗木管理																																																																					
	雑収入	54,509	損保保険金返還																																																																					
収入計		13,343,082																																																																						
経常支出	事業費	各種保健・福祉サービス	3,006,249	敬老会																																																																				
		地域おこし、各種イベント等	210,281	フェスタ経費、そばの里経費																																																																				
		人づくり、文化・スポーツの推進	8,350,000	文化振興事業、とん汁サービス																																																																				
		環境づくりの推進	84,268	ごみ拾い、森づくり																																																																				
		まちづくり活動活性化のための調整、助言又は支援	66,428	講演会経費																																																																				
	管理費	職員人件費	1,418,559	職員賃金																																																																				
		法定福利費	197,355	社会保険料等																																																																				
		旅費・費用弁償	23,184																																																																					
		事務費・需用費	892,715																																																																					
		電話使用量	92,292																																																																					
		通信運搬費	37,830																																																																					
		保険料費	91,750																																																																					
		支出計		14,470,911																																																																				
行政による人的支援	旧佐久間町職員 68 名が各活動委員のサポーターとしてボランティアで加入。合併後役所内の移動等により 3 分の 1 ほど減少。																																																																							

4. 外部とのネットワーク

地域の諸団体等との連携	まちなかの既存の各種団体との連携により活動を行っている。
地域外との連携	地域外への PR より、まずはまちをどうするかを第一に考えている。
ICT の利活用	ホームページを手直ししている。女性によるブログ「がんばらまいか！佐久間の女たち」を開設した。

5. 現状と今後の方向性

現在の到達点	経営の安定性と後継者の確保が大きな課題である。収支の見通しはでてきた。後継者については危機に直面していないこともあり、方策はない。地域内での評価を受けるにはいたっていない。まだ不便を感じていないため、NPO の活動のありがたさを感じていない。ただし、NPO タクシーにより地域の評価が少しずつ上がってきてはいる。
行政との関係	地域協議会との連携関係はない。 市は NPO の活動には理解がある。(委託事業も受けている)

5. 大馬越地区コミュニティ協議会（鹿児島県薩摩川内市（旧入来町））

所在地	鹿児島県薩摩川内市（旧入来町）
設立年月	平成 17 年 4 月
圏域単位、参加	小学校単位、全世帯が加入
過疎地域等指定	市町村の一部を占める過疎地域

1. 組織

組織化のきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> 平成 16 年の合併を契機として、市域が均等発展するため、市全体から意見を吸い上げる仕組みとして、それまでの地域自治の単位や組織を再編し、概ね小学校区単位として、平成 17 年度に協議会方式を一斉に設立した。 単に自治会の組織を大きくするものではなく、生活圏としての小学校区の中のような様々な組織（老人クラブや PTA、生涯学習など）を協議会としてまとめていった。それぞれの組織を下部組織化するのではなく、部会制にしてまとめている。
既存集落との関係	<ul style="list-style-type: none"> 自治会数は全 11 である。協議会全世帯数は 340 世帯。
地域住民参加の形、地域代表性	<ul style="list-style-type: none"> 自治会や地域の関係者が積極的に参加している。
経済活動の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> 2 年前からシソジュースの試作をはじめ、加工・販売を行っている。豆腐作りも試験的に作っている。
戦略性と評価システム	<ul style="list-style-type: none"> 設立時に 5 年計画の地区振興計画を策定。まちづくりの目標を「地区住民が協力し、歴史、自然、文化を守り、未来を拓く活気ある郷をめざす」としている。
会員・会費	<ul style="list-style-type: none"> 年会費 1200 円 / 世帯。 自治会経費によるコミ協と消防後援会の会費として約 34 万円になる。
事務所	<ul style="list-style-type: none"> 公民館を兼ねたコミュニティセンター内にあり。

2. 活動

活動の範囲	<ul style="list-style-type: none"> 地区振興計画では地域の状況や課題に応じて、以下の活動を計画し、事業（40 事業）を展開している。 防災・生活安全対策の充実 防犯対策 交通事故撲滅運動 自治活動 定住促進 健康促進活動 ふれあい活動 社会参加促進活動 環境整備活動 イベント活動 産業振興活動
活動内容	<p>4 つの部会を組織している。部会別の主な活動は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治活動部会：ホテルの夕べ、文化祭、地域運動会 など 青少年部会：馬越ん子のつどい、伝承芸能・行事 など

	<ul style="list-style-type: none"> 健康福祉部会：先進地視察、グラウンドゴルフ大会、ふれあいお届弁当、生き生き講演会 など 環境地域づくり部会：しそ種蒔き、しそジュース作り、ほたるマップ作成、大豆作付け・おかべ（豆腐）製造 など
特産品開発・販売	<ul style="list-style-type: none"> シソジュースは2年前から試作をはじめ、昨年から販売を開始した。環境地域づくり部会が担当している。800円、500円など3種類を作り、昨年度は延べ1500本、90万円を売り上げた。平成20年度は3000本の販売を計画している。 シソの栽培は、休耕田や協議会メンバーの田畑で行う。メンバーによる畑もあるし、話題を聞いた一般の方が栽培したシソをもらったりする。収穫は7月までであり、ちょうど今が繁忙期（今しか加工できない）。今日も18～19人が午前中から収穫、加工していた。 地域住民がボランティア的に従事するのでできるのであって、シソジュース開発が企業採算ベースで合うものとはなっていない。

3. 財源と人材

理事数	<ul style="list-style-type: none"> 理事は12名（会長1名、副会長3名、部会長4名、幹事2名、相談役2名）。 役員の任期は1年。4年めに入ったこれまでで、過去2名の部会長が交替した。 									
スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> 市の嘱託職員であるコミュニティ主事と、協議会で独自に採用し、市からの協議会運営費補助金からその人件費を賄っている事務局員1名の合計2名体制。 									
経常収入										
経常支出	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>収入（千円）</th> <th>支出（千円）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19年度</td> <td>2,283 （会費337, 市からの運営補助金 1,619, 他）</td> <td>2,283 （役員手当184,賃金924、部 会費535,他）</td> </tr> <tr> <td>20年度</td> <td>2,387 （会費330, 市からの運営補助金 1,642, 他）</td> <td>2,387 （役員手当194,賃金924、部 会費565,他）</td> </tr> </tbody> </table> <p>当初予算</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成19年度は収支相殺で524万円。当初予算は224万円（うち、自治会経費によるコミ協と消防後援会の会費として約34万円（年1200円/世帯）、市からのコミ協運営補助金約158万円、ほか）であったが、シソジュースの活性化事業補助金20万円と宝くじ補助金250万円が補正として加わった。 	年度	収入（千円）	支出（千円）	19年度	2,283 （会費337, 市からの運営補助金 1,619, 他）	2,283 （役員手当184,賃金924、部 会費535,他）	20年度	2,387 （会費330, 市からの運営補助金 1,642, 他）	2,387 （役員手当194,賃金924、部 会費565,他）
年度	収入（千円）	支出（千円）								
19年度	2,283 （会費337, 市からの運営補助金 1,619, 他）	2,283 （役員手当184,賃金924、部 会費535,他）								
20年度	2,387 （会費330, 市からの運営補助金 1,642, 他）	2,387 （役員手当194,賃金924、部 会費565,他）								
行政による人的支援	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ主事として嘱託職員を1名配置。また、協議会立上げ時にはコミュニティ担当職員を配置。 									

4. 外部とのネットワーク

地域の諸団体等との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域の各団体はコミュニティ協議会に構成されている。
地域外との連携	<ul style="list-style-type: none"> 市の支援制度による地区間交流制度による交流がある。 協議会として特に、交流・移住の取組を行っているわけではないが、

	地域の環境と受け入れ態勢が気に入られ、鹿児島市内他から2世帯が移住してきた。協議会の活動にも積極的に参加してもらっている。
ICTの利活用	<ul style="list-style-type: none"> 元市職員で独立した人（いちき串木野市在住）が、全協議会のホームページ立上げ（現在、48協議会中3協議会）を担当している。情報の二次利用を促進させるため、RSSを活用。 同じ人材が、シソジュースのラベルのデザインも担当。素朴さと洗練性を併せ持ったデザインを指向したもの。 ホームページは、ブログ風にしており、コミュニティ主事が日々更新している。ホームページ作成の請負金額は非営利企業ということで最低限のものとしている。

5. 現状と今後の方向性

現在の到達点	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回協議会便り（コミセンだより）も配布するし、地域の人々は協議会の活動を認識してくれている。先般の文化祭ではパワーポイントで協議会の活動を説明したり、高齢者にふれあい弁当を配布した際に協議会の説明文面を入れたりした。 高齢化が進み、地域住民による河川清掃が昔のようにできておらず、すぐに葎がいっぱいになる。 空き家はそこそこあるが、荷物の受け入れ先がない、盆と正月は所有者が戻るなどで、受け入れはなかなか難しい。 国道沿いはバス便があるが、少し中に入ると公共交通はなく、自分で車を運転しない人は家族の送迎等に頼ることとなる。 高齢者には、もらったサービスを返せないことを気にする人がいる。当初の地域振興計画に盛り込んだボランティア預金制度は2年間検討したが、導入が難しいと判断し、今年度に地区振興計画を変更してとりやめた。 国道（328号線）は整備がされているが、地域の県道、市道はまだまだ改良してほしい。
行政との関係	<ul style="list-style-type: none"> 嘱託職員であるコミュニティ主事を含め、連携して地域の問題に取り組んでいる。入来支所地域振興課とも連携している。

6. 鹿島地区コミュニティ協議会（鹿児島県薩摩川内市（旧鹿島村））

所在地	鹿児島県薩摩川内市（旧鹿島村）
設立年月	平成 17 年 4 月
圏域単位、参加	小学校単位（小学校が 1 つのため旧村単位でもある）全世帯が加入
過疎地域等指定	市町村の一部を占める過疎地域、離島（下甕島北部）

1. 組織

組織化のきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> 平成 16 年の合併を契機として、市域が均等発展するため、市全体から意見を吸い上げる仕組みとして、それまでの地域自治の単位や組織を再編し、概ね小学校区単位として、平成 17 年度に協議会方式を一斉に設立した。 単に自治会の組織を大きくするものではなく、生活圏としての小学校区の中のような様々な組織（老人クラブや PTA、生涯学習など）を協議会としてまとめていった。それぞれの組織を下部組織化するのではなく、部会制にしてまとめている。
既存集落との関係	<ul style="list-style-type: none"> 自治会（地区自治会）数は全 7 である。以前は鹿島地区には 4 集落あったが、寺家（昭和 30 年代には 17 世帯が居住）中山の 2 集落は消滅した。
地域住民参加の形、地域代表性	<ul style="list-style-type: none"> 自治会や地域の関係者が積極的に参加している。
経済活動の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> とさかのりの販売を行っている。年間のうち 6 月の 3 日間だけ、4 名を雇用している。昨年は 2~3 万円の利益である。
戦略性と評価システム	<ul style="list-style-type: none"> 設立年度に 5 年計画の地区振興計画を策定（H17.10.25 市に提出）、まちづくりの目標を「先祖から受け継ぎ、守り続ける 鹿島地区」としている。
会員・会費	<ul style="list-style-type: none"> 年会費 1500 円 / 世帯。 コミュニティ協議会ができるまでは自治会費はとってなかった。
事務所	<ul style="list-style-type: none"> 公民館を兼ねたコミュニティセンター内にあり。

2. 活動

活動の範囲	<ul style="list-style-type: none"> 地区振興計画では地域の状況や課題に応じて、以下の活動を計画し、事業（27 事業）を展開している。 蘭牟田瀬戸架橋建設促進運動の推進事業 防災、安全対策の推進 交通事故ゼロのまち推進対策 環境対策の推進 ごみ処理の充実 諸行事に関する運動推進 生涯学習等支援事業 地区産業の支援事業 地区住民の交流活性化の充実 全国かしま交流会支援事業 地区の特性を活かした子供会活動 世代間交流活動推進 安全なまちづくり推進 老人クラブ連携事業 スポーツイベント行事の充実
-------	---

	体力、健康増進の推進 敬老会の実施推進
活動内容	4つの部会を組織している。部会別の主な活動は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治活動部会：架橋建設促進、成人の集い など ・ 地域づくり産業部会：郷土料理講習会、磯そうじ等交流事業、とさかのり加工販売 など ・ 青少年育成部会：花いっぱい運動の推進 など ・ 健康福祉部会：講演清掃、各種スポーツ大会、健康教室 など
生活機能の支援	・ コミュニティセンター内では営業目的の事業はできないが、地区に生活サービスが不足している点を補うため、コミュニティセンター隣接の老人いこいの家を現在改修中、行政財産であったものが普通財産化され、改修後はコミュニティ協議会が運営する。設備はあるが使っていない床屋を使うようにしたり、時計（川内から）眼鏡、衣料品（熊本方面から）の訪問販売スペースなどとする。
定住・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ウミネコ留学制度」は旧鹿島村時代の平成8年に開始したもの。現在までに全国から約160名を受け入れている。成人になった後も、甕島を訪れたり、関係のある人が多い。甕島船舶会社にはウミネコ留学者の人（現在24歳）が就職している。かつては月々村4万円、親2万円の負担だったが、現在は市3万円、親3万円となっている。留学者は小学校4年生～6年生あたりが多い。 ・ 平成19年に夏に2泊3日で実施してした、市事業の「余暇交流体験モデル事業 in 鹿島」で、34歳独身の移住者が一人誕生した。現在は、猟師見習いをしている。ブルーーツーリズムとして、2泊3日でイカ釣り、定置網、浜石アート作成などをするものである。

3. 財源と人材

理事数	・ 理事は8名（会長1名、副会長1名、部会長4名、幹事2名）。						
スタッフ	・ 市の嘱託職員であるコミュニティ主事と、協議会で独自に採用し、市からの協議会運営費補助金からその人件費を賄っている事務局員1名の合計2名体制。						
経常収入							
経常支出	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>収入（千円）</th> <th>支出（千円）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19年度</td> <td>2,420 （会費276, 市からの運営補助金 1,078, 他）</td> <td>2,357 （役員手当、事務費等の運営 費1,020,各種事業費971,他）</td> </tr> </tbody> </table> <p>決算額。平成19年度決算書による</p>	年度	収入（千円）	支出（千円）	19年度	2,420 （会費276, 市からの運営補助金 1,078, 他）	2,357 （役員手当、事務費等の運営 費1,020,各種事業費971,他）
年度	収入（千円）	支出（千円）					
19年度	2,420 （会費276, 市からの運営補助金 1,078, 他）	2,357 （役員手当、事務費等の運営 費1,020,各種事業費971,他）					
行政による人的支援	・ コミュニティ主事として嘱託職員を1名配置。また、協議会立上げ時にはコミュニティ担当職員を配置。						

4. 外部とのネットワーク

地域の諸団体等との連携	・ 地域の各団体はコミュニティ協議会に構成されている。
地域外との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の支援制度による地区間交流制度による交流がある。 ・ その他、うみねこ留学制度や、市事業による定住・交流事業を行っている。

ICT の利活用	<ul style="list-style-type: none"> 元市職員で独立した人（いちき串木野市在住）が、全協議会のホームページ立上げ（現在、48 協議会中 3 協議会）を担当している。今年 6 月末から開設している。
----------	---

5．現状と今後の方向性

現在の到達点	<p>地区コミュニティ協議会の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 合併当初は、コミュニティ協議会という制度については、行政からの押し付けだと思っていたが、地域の問題について、住民が対応していかななくてはならないことを理解するようになり、今では協議会が一丸となって取り組んでいる。 合併前は、地域の問題について住民は村に直接伝えていたが、今はコミュニティ協議会が窓口となっている。 <p>村・地区の変遷</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧鹿島村は、昭和 24 年に旧下甕村から分村されてできた。最盛期には人口 3000 人（現在は 500 人余）を数え、小学校 1 学年の児童数は 70 人くらいいた。うち高校へ進学する者は 10 名程度だった。 現在の高齢化率は約 50%。昭和 60 年からの人口減少率は 48%、世帯数減少率は 35%。 巻き網船団などでいわしを取っていたが、いわしが取れなくなったこと、漁法が変わったこと、化学調味料に押されたことなどから漁業が衰退した。 <p>就業・日常生活の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 鹿島地区（人口 565 人、世帯数 335）の漁業組合には正組合員が 70 人、准組合員が 150 人ほどいる。漁業のほかの就業先としては、市役所支所、社会福祉協議会、特別養護老人ホームなど。製造業はなく、建設業も小さい会社が 1 つあるのみ。 食堂、レストランは地区にない。 年金がもらえる年齢になった人は、島に戻ってきた方が生活しやすい。会長自身、関西に 15 年在住した後に帰郷。水がおいしいのでお米がおいしく炊ける。旧鹿島村では公共下水道は昭和 62 年に完備されている。 高校生は本土で、学校の寮に入ったり、下宿して島を出て行く。母親と一緒に付いて行って同居する場合もある。 離島に対する国の経済的支援がもっとほしい。 <p>地域の交通</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 14 年にフェリーが増便された。かつては甕島に戻るには、串木野港に 13 時までに着くことという認識が皆にあった。現在は、高速船とフェリーをあわせて年間 20 万人の利用者がある。最近の甕島への観光客は増えていると思う。 現在、薩摩川内市では、川内港に高速船、串木野港にフェリーのすみわけを提案している。
行政との関係	<ul style="list-style-type: none"> 嘱託職員であるコミュニティ主事を含め、連携して地域の問題に取り組んでいる。鹿島支所地域振興課とも連携している。

7. 西山地区コミュニティ協議会（鹿児島県薩摩川内市（旧下甕村））

所在地	鹿児島県薩摩川内市（旧下甕村）
設立年月	平成 17 年 4 月
圏域単位、参加	小学校単位、全世帯が加入
過疎地域等指定	市町村の一部を占める過疎地域、離島（下甕島南部）

1. 組織

組織化のきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> 平成 16 年の合併を契機として、市域が均等発展するため、市全体から意見を吸い上げる仕組みとして、それまでの地域自治の単位や組織を再編し、概ね小学校区単位として、平成 17 年度に協議会方式を一斉に設立した。 単に自治会の組織を大きくするものではなく、生活圏としての小学校区の中のような組織（老人クラブや PTA、生涯学習など）を協議会としてまとめていった。それぞれの組織を下部組織化するのではなく、部会制にしてまとめている。
既存集落との関係	<ul style="list-style-type: none"> 自治会が 6 つあったが、今年 4 月に 2 つに統合した。
地域住民参加の形、地域代表性	<ul style="list-style-type: none"> 自治会や地域の関係者が積極的に参加している。 <p>区の復活</p> <ul style="list-style-type: none"> 協議会設立により、これまで地区にあった区の制度を 2 年間なくしていたが、今年になって復活させた。協議会の補助金の使い方が不自由であること、神社や宗教に関することはもともと区で行ってきたからである（コミュニティ協議会では宗教関係の行事は行いにくい）。共同墓地の管理、土地の境界について評議員が歩み寄りをさせていたが、それが出来なくて不便を感じていた点もある。コミュニティ協議会は対外的に活動するための組織である。 区長の任期は 3 年、評議員も 3 年、5 名である。コミュニティ協議会の役員のうち 3 名は区の評議員となっている。また、協議会役員の相談役に最近、区長も入っている。 区は財産管理の役割もある。土地・山を持っているが法人格はない。登記は工事の時に区長名義にしたりしている。法人格を取ることにについては反対意見もある。
経済活動の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> 休耕田復活事業により、焼酎芋を販売したり、とさかのりの加工を行っているが、収益が出るまでには至っていない。
戦略性と評価システム	<ul style="list-style-type: none"> 設立年度に 5 年計画の地区振興計画を策定（H17.10.25 市に提出）。まちづくりの目標を「ナポレオン岩のある海岸線と自然を生かした観光地域づくり」としている。
会員・会費	<ul style="list-style-type: none"> 年会費 2400 円 / 世帯。自治会費はないが、区の会費も別に 2400 円 / 世帯。
事務所	<ul style="list-style-type: none"> 公民館を兼ねたコミュニティセンター内にあり。

2. 活動

活動の範囲	<ul style="list-style-type: none"> 地区振興計画では地域の状況や課題に応じて、以下の活動を計画し、事業（22 事業）を展開している。 <p>新年拝賀式典 夏祭り</p>
-------	--

	<p>天草加工事業 休耕田復活事業 シャノーノー トシドン モーソーダシ、メッシュョーダシ カンネンカツラ十五夜つなひき ナポレオン留学制度奨励事業 虹の架け橋交流事業 子供みこし 劇の創作活動事業 敬老会 となり組声かけ事業 花を咲かせよう事業 リサイクル推進事業 ゴミ分別推進事業 地区清掃活動事業 自主防災活動事業 海水浴場シャワー室管理事業 駐車場維持管理事業 観光施設美化活動事業</p>
活動内容	<p>自治会をあわせて5つの部会を組織している。部会別の主な活動は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治活動部会：コミュニティ便り、交通安全活動 など ・ 健康福祉部会：となり組み声かけ運動 など ・ 地域づくり部会：各種祭り、イベント など ・ 青少年育成部会：留学制度 など ・ 自治会：ゴミリサイクル推進活動 など
定住・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 去年は3人で今年は2人（小学2、4年生の女子、両者とも栃木県出身）を受け入れている。ホームページを見て問合せをする方が多い。協議会では今年からホームページを設置している。 ・ 以前は、「子戻し・孫戻し」という名称だったのであまり集まらなかったが、平成10年から「ナポレオン留学制度」という名前にしてからは集まるようになっていく。村とは別に、以前から瀬々の浦区の事業として行ってきたものである。 ・ 里親には、協議会から3万円、市から3万円の他、区から5,000円を当てている。
高齢者の見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一昨年、独居老人が亡くなって何日かしてから発見されたことがあった。そのため、昨年「黄色い旗」を70歳以上の独居高齢者で希望する人に渡し、起きたときには家の外に旗を立てて、寝るときにしまうようにして、何かあったら地域で気づくような体制をとっている。そんなものいらないという人もいる。都会では、そのようなことをすれば一人暮らしということを示していることになるので、泥棒に入られやすくなると言われるところである。この辺の家は夜でも鍵をかけない家が多いし、物騒な事件は起きたことがない。 ・ 社会福祉協議会で高齢者の訪問をする。
休耕田復活事業（焼酎芋の栽培）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休耕田を活用した焼酎芋の栽培を行っている。地区で焼酎の生産まではできてなく、芋を売るまでで終わっている。ボランティアで行っており、利益を出すところまでにはいってない。

	<ul style="list-style-type: none"> 1年目は棚田が山に戻ったところを、3箇所開墾した。2年目はあまり収穫が出来なかった。3年目は少し収穫できたのだが、売上げの3万円は、開墾に協力してくれた方2名に1万5千円ずつ払った。日当割りで考えたらこれ以上の金額を払う必要がある。今年(4年目)は植え終わったところだが、収穫後は売るだけである。今のところは、皆でわいわいとやることに意義を感じている状況である。
--	---

3. 財源と人材

理事数	<ul style="list-style-type: none"> 理事は8名(会長1名、副会長1名、会計1名、部会長4名、監事2名、相談役3名)。 									
スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> 市の嘱託職員であるコミュニティ主事1名のみ。協議会で独自に採用しているスタッフはいない。 									
経常収入										
経常支出	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>収入(千円)</th> <th>支出(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19年度</td> <td>2,373 (会費290、 市からの運営補助金 1,078、他)</td> <td>2,373 (役員手当、事務費等の運営 費997、各種事業費971、他)</td> </tr> <tr> <td>20年度</td> <td>1,904 (会費276、 市からの運営補助金 1,077、他)</td> <td>1,904 (役員手当、事務費等の運営 費826、各種事業費1,141、 他)</td> </tr> </tbody> </table> <p>予算額。平成20年度予算書(案)による</p>	年度	収入(千円)	支出(千円)	19年度	2,373 (会費290、 市からの運営補助金 1,078、他)	2,373 (役員手当、事務費等の運営 費997、各種事業費971、他)	20年度	1,904 (会費276、 市からの運営補助金 1,077、他)	1,904 (役員手当、事務費等の運営 費826、各種事業費1,141、 他)
年度	収入(千円)	支出(千円)								
19年度	2,373 (会費290、 市からの運営補助金 1,078、他)	2,373 (役員手当、事務費等の運営 費997、各種事業費971、他)								
20年度	1,904 (会費276、 市からの運営補助金 1,077、他)	1,904 (役員手当、事務費等の運営 費826、各種事業費1,141、 他)								
行政による人的支援	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ主事として嘱託職員を1名配置。また、協議会立上げ時にはコミュニティ担当職員を配置。 									

4. 外部とのネットワーク

地域の諸団体等との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域の各団体はコミュニティ協議会に構成されている。
地域外との連携	<ul style="list-style-type: none"> 市の支援制度による地区間交流制度による交流がある。 その他、ナポレオン留学制度を行っている。
ICTの利活用	<ul style="list-style-type: none"> 元市職員で独立した人(いちき串木野市在住)が、全協議会のホームページ立上げ(現在、48協議会中3協議会)を担当している。しかしながら、更新などは頻繁に行われていない。

5. 現状と今後の方向性

現在の到達点	<p>地区の概況</p> <ul style="list-style-type: none"> 直近の協議会調べによると人口193名、111世帯。(住民基本台帳では、人口192名、121世帯(H20.4.1)。単身世帯は65世帯。小学生は10名、うち2名が留学生。中学生は2名であるが、地区に中学校がないため、バスで長浜地区の海星中学校に通っている。 地区の全世帯の自動車の数は63台(事業用のトラック等込)である。乗り合わせの依頼も多い。 <p>地区での生活</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区には、商店は4件、出張診療所(フジテレビ系列で放映された
--------	---

	<p>Dr.コトーのモデルとなった手打診療所から、週1回午前中のみ、以前は週2回だったが減った。その昔は看護師が常駐していた)が1つ、郵便局がある。より規模の大きい長浜地区、手打地区で、何かの用があるついでに買い物をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民宿は3件ある。釣り客、自衛隊の工事関係が多い。主婦の観光客もいる。 ・ ガソリンは220円くらいで本土より40~50円高い。島で売っているものも高い。魚は地元で取れるが、買う場合が多くので決して安くはない。ただ魚や野菜はもらったりしている。外からは生活しやすい、物価が安いイメージがあるが、消耗品は高く、高校が島にないため等の教育費支出も含めればさらに生活費は高づく。 <p>地区の漁業等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西側の海岸に位置するため、冬は風も強く荒れる。漁業は活発ではない。やりたくても気候のためにやれないというのが実態。 ・ 漁船は11艘あり、うち6名が漁業で生計をたてている。その他は兼業で漁業をしている。農業は自給の補助程度で、ほとんどが国民年金の月3万円程度で生活している。その中で、区やコミュニティに合計4,800円を負担することはつらい。 ・ 地区内に農地はほとんどない。 <p>交通事情</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手打地区にある下甕支所(旧村役場)に行くのにも道路が悪いので、トンネル整備(2km区間程度で済む)の要望がある。昔は、青瀬地区(昔はフェリーが停まったが今は停まらない)までけもの道を1時間歩いていた。 ・ 長浜地区までは、バスで630円、1日4便がある。手打地区からは970円、手打地区までの直行バスはなく、1,000円以上となる。
行政との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 嘱託職員であるコミュニティ主事を含め、連携して地域の問題に取り組んでいる。下甕支所地域振興課とも連携している。

8 . NPO ふれあい由比（静岡県由比町）

所在地	静岡県由比町（平成 20 年 11 月、静岡市と合併）
設立年月	平成 20 年 6 月設立総会、平成 20 年 9 月認定予定
圏域単位、参加	町域、全世帯が加入
過疎地域等指定	-

1 . 組織

組織化のきっかけ	合併によりこれまで町が企画・立案して行っていた町民参加の行事がなくなることに不安を感じ、行政が区長（自治会長）会に NPO 法人設立を提案し、区長会や各種団体の代表者からなる準備委員会を組織した。
既存集落との関係	区長を通じて NPO に関する情報発信を行っている。 会費の徴収方法も各区の区長に任せている。
地域住民参加の形、地域代表性	全戸参加という形態にこだわるのは、会員でない（会費を納めていない）ために行事に出られないということを守るためである。ただし、自治会に加入していない方は NPO 会員からも外れてしまう。 町からの基金の寄付については現在町長に要望書を提出している。
経済活動の位置付け	経済活動について現在具体的予定はない。
戦略性と評価システム	7 委員会を組織。各委員会の委員長、副委員長は各種団体の長がつとめる。これまでは行政主導で各種団体がサポートしていたが、今後は各種団体が中心となっていく行事を NPO がサポートしていく。
会員・会費	会員全世帯を予定、年会費 500 円 / 世帯
事務所	町の敷地内にプレハブを建設予定。

2 . 活動

活動の範囲	由比町が行ってきた行事の継承。今後、NPO として力がついてきたら新たな活動を検討していく。
活動内容（予定）	
総務	・広報誌の発行 ・成人式
健康・福祉活動	・ふれあい祭り ・敬老会 ・健康まつり
スポーツ活動	・少年少女スポーツチャンバラ選手権大会 ・グラウンドゴルフ大会 ・町民体育祭 ・町駅伝競走大会
産業経済	・由比桜えびまつり ・由比街道まつり
文化	・町民文化祭
参加者にとっての意義	町民をどのように巻き込んでいくかが課題である。

3. 財源と人材

理事数	理事 19 人、監事 2 人
スタッフ	有給社員 2 人を予定
経常収入	<ul style="list-style-type: none"> ・会費収入は 135 万円の見込み ・その他に、市補助金、協賛金、参加料 等 ・将来的には委託事業を実施していく予定
経常支出	<ul style="list-style-type: none"> ・管理事務経費（千円） 人件費 1,880 臨時職員賃金、社会保険料等 事務所経費 400 事務室使用量・光熱費 需用費 200 事務用品消耗費等 役務費 260 電話使用量、通信運搬費、保険料 その他 128 旅費および費用弁償
行政による 人的支援	現状は町職員がサポート。合併後は不明。

4. 外部とのネットワーク

地域の諸団体等 との連携	静岡市にある中間支援組織とは今後連絡をとっていく予定。
地域外との連携	がんばらまいか佐久間、まちづくり山岡等を視察し、参考にしている。
ICT の利活用	未定

5. 現状と今後の方向性

現在の到達点	活動もまだ始まっていないため、住民から NPO に対する意見は現在のところない。一般の住民の方は合併によって住民サービスが低下するという危機感はない。現実的な問題として捉えていない。
行政との関係	静岡市とは直接コンタクトはとっていないため、今後どう連携していくかは不明。

9. NPO まちづくり山岡（岐阜県恵那市（旧山岡町））

所在地	岐阜県恵那市（旧山岡町）
設立年月	平成 15 年 7 月
圏域単位、参加	旧町域、全世帯が加入
過疎地域等指定	-

1. 組織

組織化のきっかけ	合併後に山岡町の自立を目指し、町独自の事業を残し、町のアイデンティティを高めるため、行政が組織と事務の人材をバックアップし、合併 1 年前から活動を行ってきた。
既存集落との関係	住民は区長会に対しての信頼が大きいと、区長会と NPO の息がそろわないとうまくいかない。そのため現在は区長会長と NPO 理事長が同じ人物が務め、区長会との協働を目指している。 住民への情報発信も区長を通じて行う。
地域住民参加の形、地域代表性	全戸参加としているが会費は徴収していない。区長会の手承により全戸加入としている。 住民からは、NPO は自治政府の代わりとして見られている。 設立に当たっては、全戸加入であることが議会の後押しとなり、旧山岡町より 6800 万円寄付があった。
経済活動の位置付け	NPO は各種団体が行う事業の支援を行うという位置づけになっており、NPO 独自で経済活動は行っていかない。
戦略性と評価システム	設立当初 16 委員会であったが、平成 17 年に 8 委員会にスリム化し、平成 20 年度からは NPO 内部には委員会を持たないようにした。
会員・会費	会員約 1500 戸 会費なし
事務所	プレハブを借りている。

2. 活動

活動の範囲	平成 20 年度から事業をスリム化、地域協議会からの委託事業も各種団体が行い、NPO はその支援を行うことになった。
活動内容	
地域安全パトロール	・週 2 回実施
環境美化	・草取りなどを女性部や子ども連合会が中心となり実施
ふれあいサロン	・ボランティア組織 250 名ほどが活動実施する介護予防拠点
ご近所助け合い	・防災・防犯 ・独居老人への対応
イベント	・登り窯フェア：小中学生が陶器を焼く体験 ・ささゆりの里づくり：イワクラ公園にささゆりを植栽 ・夏祭り、秋の祭典
自主事業	・パソコン教室
指定管理	・いわくら公園、ネイチャーセンター管理 ・デイサービス 等
参加者にとっての意義	これまでの活動では参加者の負担が大きかった。今後は参加者が何を考え、何を行いたいかを基礎とした活動とし、達成感を味わえる事業のやり方としていく。

3. 財源と人材

理事数	理事 20 人、監事 2 人			
スタッフ	有給社員 2 人（理事長 1 人、事務スタッフ 1 人）			
経常収入	平成 20 年度より事業を見直しており、平成 19 年度と収支は大きく変更になる見込み。 (単位:円)			
	平成19年度収支決算		平成20年度予算計画	
	補助事業	3,057,000	補助事業	1,610,000
	地域づくり事業	7,149,627	地域づくり事業	8,750,000
	施設委託事業	10,102,601	指定管理(イクラ公園)	1,355,183
	福祉事業	71,196,830		
	自主事業	6,614,448		
	雑収入	606,029		
	収入計	98,726,535	合計	11,715,183
経常支出	補助事業	2,104,615	補助事業	1,505,000
	地域づくり事業	7,096,747	地域づくり事業	8,750,000
	施設委託事業	9,442,376	自主事業	100,000
	福祉事業	65,050,753	助成金	150,000
	自主事業	45,062,518	一般管理費	4,050,000
	一般管理費	8,553,209	指定管理(イクラ公園)	1,355,183
	法人税、住民税、事業税	190,400		
	支出計	137,500,618	合計	15,910,183
行政による人的支援	合併後はなし			

4. 外部とのネットワーク

地域の諸団体等との連携	地域協議会会長、区長会長、NPO 理事長のすべてを同一人物が行っており、これら団体が協働できるようにしている。
地域外との連携	これまでは対外的なアピールが多く、全国から視察も多く訪れたが、今後は地域内に目を向けていく。
ICT の利活用	-

5. 現状と今後の方向性

現在の到達点	これまで NPO の資金があったためにそれに甘えており、町民不在の、NPO のための活動を行ってきた。そのため町民の賛同もあまり得られなかった。今後は組織をスリム化し、各種団体からのボトムアップでの事業を支援する立場としていく。
行政との関係	地域協議会による地域づくり事業を受託している。実際に実行するのは、各種団体（まちづくり組織）となる。 旧山岡町時代は行政が NPO をお膳立てしていたが合併後はなくなった。